

高齢者を取りまくコミュニティの実態 (鹿児島県笠沙町の事例)

その1 - 調査対象地域の概要

正会員 ○ 櫻井 亜衣³⁾同 友清 貴和¹⁾同 古川 恵子²⁾

1. はじめに

出生率の低下と高齢者人口が増加を続け高齢化が進む現在、親世帯と子世帯の同居率は低下し、高齢者のいる世帯では、単独世帯及び夫婦のみの世帯の割合が大きくなってきている。

地方地域においては特に、過疎化と高齢化が進行し、高齢者人口が増加している。高齢者の多くは、長年住み慣れた地域で今後も生活することを望んでいる。

高齢者が自らの意志により、可能な限り自立した生活を営むには、行政による公的支援は不可欠であるが、現状では十分とはいえない。施設ケアから在宅ケアへと福祉行政が変わる中、高齢者を取りまくコミュニティが重要な要素となってくる。また、一方、地域の高齢者の多くは定住年数も長く、生活基盤を居住地に持ち、心身が健康であるため、地域社会の一員として社会活動に参加し役割を持つことが可能である。とりわけ、健康な高齢者が、身体的、精神的な面から支援を必要とする高齢者と関わりを持つことが期待される。

2. 研究の目的

高齢者の生活支援実態については、これまで農村住居の住まい方や福祉施設に関する分野、都市計画的分野で研究がなされてきた。本研究は以上の認識のもとに、高齢化、過疎化の進む農、漁村と山間地域を対象とし、それぞれの地域での人々のつき合いや社会参加等の実態から高齢者の生活を支える要因を考察する。そして、今後の高齢者の生活環境に求められる要件を抽出することを目的とする。

3. 研究の方法

鹿児島県は高齢化率20.9%(総務庁)である。本研究では、高齢化率37.8%の笠沙町を対象とした。笠沙町は、町内に農・漁・山村集落を抱える過疎町である。また、急傾斜山間地が多く、密度の高い昔ながらの集落が残っている。40歳以上の全町民を対象に、社会活動への参加状況や、近隣、親戚とのつき合い、地域の人々と高齢者のかかわり方を、アンケート調査を行い分析・考察した。

4. 調査の概要

4-1. 調査方法

平成10年8月に3集落の高齢者数人、9月に職業上高

齢者と関わりのある郵便局の職員にヒアリング調査を行い、アンケート調査用紙を作成した。

調査期間は、平成10年11月。調査は、笠沙町に委託した。調査の回答を得られたのは、40歳から64歳が895人、有効回収率68.4%、65歳以上が1264人で有効回収率85.5%、年齢不明94人であった。

4-2. 調査地区の概要

笠沙町は薩摩半島の西南端に位置し、東シナ海に面する周囲は典型的なリアス式海岸が続き、25の集落からなる。町の一部に平坦地がある他はほとんど傾斜地である。

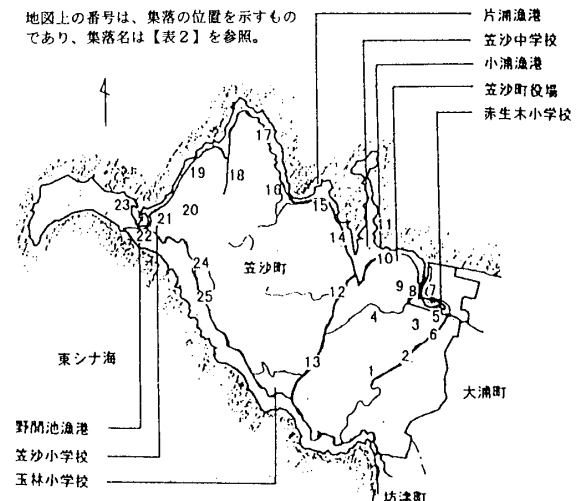
【表1】 笠沙町概要

人口	3967人	高齢化率	37.80%
40~64歳人口	1371人 (34.6%)	第一次産業人口	34.10%
65~74歳人口	867人 (21.9%)	第二次産業人口	22.90%
75歳以上人口	634人 (16.0%)	第三次産業人口	42.90%

【表2】 集落の人数

集落名	人数	集落名	人数	集落名	人数
1 市崎本場	36	10 上村	62	19 小崎	12
2 松本場	56	11 小浦	263	20 魚路	27
3 笠石	85	12 榎木	104	21 山神	42
4 山野	43	13 黒瀬	324	22 野間池	163
5 新田	75	14 仁玉崎	107	23 碑	120
6 並木	45	15 片浦	237	24 太郎本場	68
7 浜田	9	16 大当	148	25 姥	29
8 清水	73	17 高崎山	13		
9 笠松	66	18 谷山	28		

地図上の番号は、集落の位置を示すものであり、集落名は【表2】を参照。



【図1】 笠沙町集落配置

A Study on the Community of the Elderly people.(using Kasasa-cho in Kagoshima prefecture as a Model)No.1
An abstract of investigation area.

SAKURAI Ai, TOMOKIYO Takakazu and FURUKAWA Keiko

4-3. 調査項目と主な調査結果

今回の調査項目と調査結果（単純集計）は以下のとおりである。

【表3】 調査結果概要

調査項目	回答項目	人数(%)	調査項目	回答項目	人数(%)	
年齢	40～54歳	396 (17.6)	子どもの有無	いる	1948 (86.5)	
	55～64歳	499 (22.1)		いない	271 (12.0)	
	65～74歳	755 (33.5)		不明	34 (1.5)	
	性別	75歳以上	509 (22.6)	別居の子どもの有無	集落内	39 (6.9)
		不明	94 (4.2)		町内	37 (6.5)
男性		870 (38.6)	町外		62 (11.0)	
女性		1352 (60.0)	県内		258 (45.7)	
職業	不明	31 (1.4)	別居の子どもの有無	県外	169 (29.9)	
	公務員・会社員	227 (10.1)		集落内	162 (15.3)	
	農林水産業	354 (15.7)		町内	122 (11.5)	
	自営業	129 (5.7)		町外	144 (13.6)	
	無職	1432 (63.6)		県内	329 (31.1)	
	その他	56 (2.5)		県外	302 (28.5)	
居住年数	不明	55 (2.4)	集落内の親類の有無	いる	1961 (87.0)	
	0～19年	362 (16.1)		いない	225 (10.0)	
	20～39年	441 (19.6)		不明	67 (3.0)	
	40年～	1433 (63.6)		親類づきあい	よくつきあう	1884 (69.0)
不明	17 (0.8)	時々つきあう	337 (15.0)			
家族形態	一人暮らし	420 (18.6)	ほとんどなし		28 (1.2)	
	夫婦のみ	870 (38.6)	不明		109 (4.8)	
	夫婦と子ども	390 (17.3)	0人	96 (4.3)		
	三世帯同居	166 (7.4)	1～2人	446 (19.8)		
	自分と高齢者	151 (6.7)	3～4人	634 (28.1)		
	その他	222 (9.9)	5人～	989 (43.9)		
	不明	34 (1.5)	不明	88 (3.9)		

5. 調査結果と分析

5-1. 調査対象者の属性

調査対象者の56.1%が65歳以上の高齢者である。75歳以上の人の割合が最も大きい集落は、25(41.4%)で、17, 3と続く。(以下、集落名は表2参照) 居住年数40年以上が63.6%を占める。居住年数40年以上の割合が70%以上と大きい集落は、集落17, 18, 13, 24, 25, 19, 11, 20で、最も少ない集落の割合は22.2%である。居住年数0～19年の人は、7, 19にはいない。

男性数：女性数は1：1.55で女性が多い。職業は、無職が多い。家族形態は「ひとり暮らし」と「夫婦のみ」世帯の合計が57.2%である。「ひとり暮らし」の第1, 2位は17と19で、集落の46.2%と41.7%である。17は「夫婦のみ」世帯の割合が第1位で46.2%ある。

「ひとり暮らし」の80.0%は高齢者であり、「夫婦のみ」の60.9%は高齢者である。また高齢者の26.6%はひとり暮らしである。

5-2. 職業と無職の人の日ごろの過ごし方

年齢別にみると、40～54歳は公務員・会社員が最も多く、55歳以上は無職が最も多い。

「無職」の半数以上の人々が畑つくりをしている集落がある。それは、1, 3, 4, 12, 13, 19, 20の内陸部の集落である。魚とりをする人が多い集落は9, 14, 11で、いずれも海岸から近い。日ごろの過ごし方は地理的環境と関係が

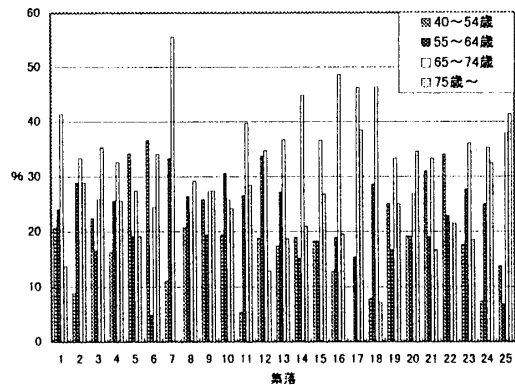
あることがうかがえる。

「無職」の人の日ごろの生活内容は、畑つくり(37.3%：複数回答)、家事のみ(34.5%)、何もしていない(20.3%)、その他、魚とり(6.5%)、近所の手伝いの順である。畑つくりをする人の71.9%と魚とりをする人の68.8%が高齢者である。

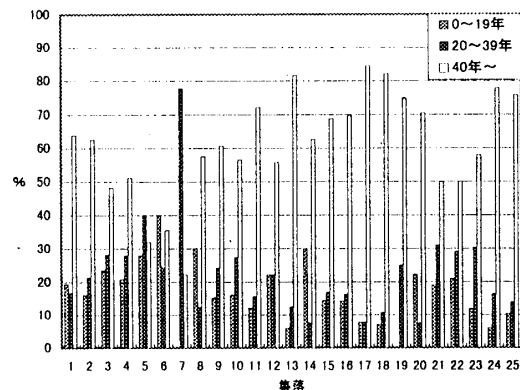
また、畑つくりをする人は女性が多い。男性で魚とりをする人は女性よりも多い。女性で魚とりをする人は1.2%いる。男性で何もしていない人が38.6%いるが、女性で何もしていない人は14.3%である。男女の違いがみられる。

6. まとめ

高齢者率が高く、現在の集落での居住年数の長い人が多い。また、集落による違いもみられる。高齢者のひとり暮らしは、26.6%、夫婦のみが41.9%である。ひとり暮らしの高齢者のうち、87.9%は女性である。人口性比64.3と女性が多い。高齢者の人口性比は58.1で、さらに女性が多い。無職の人が多く、地理的条件を生かして畑つくりをする人が多く、また高齢者が多い。魚とりをする人にも高齢者が多い。25の集落からなり、居住人数に開きがある。



【図2】 集落別年齢構成



【図3】 集落別居住年数

3) 鹿児島大学大学院修士課程

Graduate School, Kagoshima Univ.

1) 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kagoshima Univ., Dr. Eng.

2) 鹿児島女子短期大学 教授

Prof., Kagoshima Woman's Junior College.